



2021年10月26日

日本鉄道労働組合連合会

3産別共同行動【2021年秋・第4弾】～サービス連合・航空連合と連携！～

安心して移動をできる環境の整備、需要の回復に向けた政策等について

経団連との意見交換を実施！



10月22日、JR連合・サービス連合・航空連合の3産別は2021年秋の共同行動第4弾として、経団連との意見交換を実施した（本年2回目）。

3産別からはJR連合・政所大祐事務局長とサービス連合・後藤常康会長、および航空連合・内藤晃会長が出席した。9月末で緊急事態宣言が解除され、鉄道や航空機、ホテル等のご利用が少しずつ増えつつある一方で、新型コロナ第5波の急速な収束の理由は明らかではなく、行動制限の解除は部分的であり、出張や人との接触は抑制され続けている。実証実験もスタートしているが、依然として「黄色信号」が灯ったまま、感染拡大再発への警戒心と、公共交通機関等のご利用への不安は払しょくされていない。情勢の変化や課題認識を踏まえ、3産別からはあらためて産業の窮状や政策要望を伝えるとともに、「感染防止と経済活動の両立」に向けた経団連の取り組みを確認した。

需要回復には不安の払しょくに向けたメッセージが重要であることや、国際間の人流回復に向けた水際対策の段階的な緩和の必要性、デジタル証明書の導入に向けた課題と最新の動向を相互に確認したほか、ワクチン接種に係る課題と労使の取り組み等についても意見交換を行うことができた。

経団連の藤原清明常務理事からは、あらためて労使の連携、協力に関する要請があった。JR連合は引き続き、政治・行政の動向を注視しつつ、働く者の立場から、産業の枠を超えた連携、必要な政策活動を力強く展開していく。

